



大阪部会(第83回)・東京部会(第133回)合同部会

日時: 2023年3月18日(土) 15:00 -17:00

場所: Zoomによるweb上で開催

参加者: 24名(全員zoom)

【内容要旨】

(1) 篠原代表から「夏休み経済教室」に関する情報提供があった。

日程;8月21日(月)高等学校向け、8月22日(火)中学校向け

場所:慶応義塾大学三田キャンパス

方式:対面とzoomによるハイブリッド方式

内容は現在検討中で近日中に発表できるようになるとのこと。

(2)「社会的共通資本」を教える～生徒の“優勝劣敗”“格差拡大”是認の意識を踏まえて～が藤牧朗先生(茨城県立並木中等教育学校)から報告された。

社会的共通資本を取りあげた理由は、進学志向の強い中等教育学校で、自由競争を当たり前として、優勝劣敗による格差を当たり前と考える生徒たちに「それでいいのかな」という問題提起をしたいと考えたからである。また、学習指導要領の公民を読むと、宇沢氏の社会的共通資本の考え方にぴったり重なる部分もあり、それも理由の一つである。

ここでは本来理科の担当なのだが、公民の担当者から協力を要請され、4月、11月に先哲の思想、スミスからフリードマンまでの経済思想の授業を、中等4年生の「公共」で実施したことを前提として取り組んだ1時間(クラスによっては2時間)の授業である。

宇沢氏の著作を事前にかなり読んだが、使った資料は、宇沢著『人間の経済』が一番多い。この抜粋を事前にプリントにして読むように指示をしておいたが、読んだ生徒は少なかったようだ。

授業の流れは、最初にロイノートを使って「経済を一言でいう」という簡単なアンケートをとり、その上で3分ほどの動画(「あの人に会いたい」という宇沢氏をとりあげた番組の冒頭)を見せ、教科書の社会的共通資本の箇所を確認する。

その上で、当日用意した6種類の資料をジグソー法で読み取らせ、共有する。それをもう一度ペア活動で理解を深めさせて、最後に演劇的手法で宇沢先生役の生徒と質疑応答をさせるというものである。

時間の関係で振り返りは十分できなかつた。また、事前に配布した資料を読んでいないとすぐには理解できない内容のようだ。しかし、ペア学習では生徒どうしのやりとりで理解を深めていたようだった。

検討では、社会的共通資本は財政の箇所でもとりいれるとしても、3から4時間は必要だろうという感想や、ジグソーのそれぞれのテーマは何か、また、宇沢役になった生徒の選び方、どんな内容の質疑だったかという質問が出た。

それに対して、テーマは、農業、大学、都市、排出権、医療など6つのテーマであり、宇沢役に関しては、一クラスは自発的、もう一クラスでは無理やりだされた生徒だったが、両者ともはずさない程度の応答ができたとの藤牧先生からの回答があった。

(3)「令和5年度 大学入試共通テスト経済分野の問題分析」の報告が大塚雅之先生(府立三国丘高等学校)からあった。

本年度の共通テストの「政治・経済」と「現代社会」から特徴ある問題をピックアップして解説と授業への影響を分析したものである。

「政治・経済」で取り上げられたのは、思考力を問う問題として、第2問 問4 需要と供給の問題(上限規制)の問題、第2問 問5 為替介入の問題、第2問 問6 リサイクル率の問題、の三つ、メッセージ性を感じさせるものとして、第1問 問2 一人当たりのGDPから国を選ばせる問題、第1問 問3 各国の輸出品目からロシアを選ばせる問題、経済分野ではないが第3問 問6 特定少年に関する問題の三つに関してそれぞれ解説が加えられた。また、全問題の解説が紹介された。

上限規制を問う問題では、かなり理解力のある生徒でも正解出来なかつたこと、メッセージ性のある問題は、時事的な関心から問われている問題であることが紹介された。



「現代社会」では、思考力を問う問題として第1問 問5 関税に関する問題、第3問 問1 GDPに関する問題（名目と実質）の二題、メッセージ性を感じさせる問題として、第3問 問5 ネットワーク外部性の問題、第5問 問1 子どもの貧困の問題の二題をとりあげて解説があった。また、全問題の解説があった。

大塚先生からは、入試問題で出題されると教科書に入れなければならないという圧力がかかり、影響が大きく、今回もこれまでとりあげられていない用語（財産区、AIIBなど）が出ているという指摘があった。また、隠れたメッセージを読み取ることも大事であるとの指摘もあった。

思考力を問う問題で経済分野が多く見られるのは、政治より経済の方が思考力問題は作りやすいという背景もあるのではとの指摘もされた。

検討では、「政治・経済」の第2問問6のリサイクル率の問題と、「現代社会」の第1問問5の関税の問題のメッセージの意味は何かという問いかけ大塚先生からあり、前者は先進国と途上国の差がわかればよいという回答が野間先生から、また、サイズの問題で加重平均の話なので考え方や計算を教えることをしたらという示唆が篠原代表からあった。後者の自由貿易による利益に関しては、大学だどこから弾力性の話に結びつけて、安くなるから沢山売れて余剰が増加するという流れになるという回答が野間先生からあった。

質疑では、今年の「政治・経済」の平均点が「現代社会」より約10点低かったが、それをどう現場で受け止めたのかという質問に対しては、大塚先生からは教えている生徒に関しては、準備をしていたこともありそれほど低くはなかったと回答があり、また、参加をした先生から、準備をしてのぞめば中堅校の生徒でも大丈夫だったという回答と、社会が得意な生徒が取り切れなかったという学校からの回答があった。

リード文など仕掛けが複雑で時間内ではやりきれないのではという質問に対しては、地歴の問題に比べて公民の文章量が多いことは模試でも言われているとの情報提供があった。

定義を出して、そこから選択させるという問題（サービスを選ばせる）は、逆に定義が書かれているから迷ってしまったという先生の発言もあった。

大学での学びや国際的に求められる読解力の水準など考えると、この程度の分量をこなせることも求められていると理解しておいた方がよいのではというコメントも参加者から出された。

(4)「経済で戦争を教える」の報告が新井（筑波大学附属中学非常勤講師）からおこなわれた。

これは、昨年9月の東京部会での西尾理先生（都留文科大）の提起、またメルマガに二度掲載された新井の文章をもとにした、中学3年生の最後の授業で行われた授業実践の報告である。

授業は、4月からの経済の学習でウクライナ戦争を取り上げたスライドを提示して、通常の学習と戦争が関連していることに気づかせ、そこから、戦争は多面的であること、戦争を経済の生産の三要素＋情報から捉える観点があること、戦争を始める決定は、戦争をやることで得られるベネフィットと戦争によるコストを考量していること、ロシアとウクライナの経済力の差の具体的な数字などを提示する。

さらに、戦争が終わるには完全勝利と完全敗北の間のどこかでの妥協が必要になり、それは当事者が戦争のコストとベネフィットをどう見ているかによるというフレームワークを示して、ではウクライナ戦争ではどうなっているかをタブレットによる検索などにより推定させ、戦争を終わらせる方法をグループで考えさせる。

グループでの調査、討論を経てグループごとの結論を発表する。それを踏まえて簡短なレポートを作成、期末考査での論述問題（戦争はなぜはじまったか、終わらせるにはどうするか、自分たちは何ができるか）に回答させるという一連の流れで生徒の認識を深めるという授業である。

報告では、グループ学習で出てきた意見、レポート抜粋、テストで書いた生徒の回答例の紹介があった。また、新井から、授業者自身が解決着かない問題を生徒と一緒に考えてみたかったが、一応の手応えがあったこと、グループでの発表へのダメ押しがもう一つ必要だったこと、人間が登場しない授業であり、クールヘッドの部分には刺激を与えられたが、ウォームアップの部分まで取り込むにはもう少し時間が必要との総括が提示された。

検討では、これはこれで政治担当者として考えさせるスタイルの授業で、当事者意識を持たせる授業になっているのではというコメントや、多面的という点で生徒の見方は確実にひろがっているだろうが多角的という点で深めるのはもう少し時間が必要だろうというコメントがあった。

質問では、テストの論述の採点基準はという点と、ロシアの侵略でウクライナ側はロシアからの攻撃をうけるだけでロシアへの反撃ができないという事情をどこまで伝えているかという二つがあった。

前者に関しては、あまり厳密に基準をつくらず、事実が違っている場合は減点するが、あとはおおよその要素が入っていれば字数で採点したとの回答があった。後者に関しては、ウクライナの被害、悲惨な状況は前提としてあまり強調しなかったが、伝えているとの回答が新井からなされた。



経済教育ネットワーク
Network for Economic Education



<input type="checkbox"/> テスト問題 (新テストなど)	<input type="checkbox"/> 中学	<input type="checkbox"/> 高校	<input type="checkbox"/> 指導案	新聞教材(NIE)
--	-----------------------------	-----------------------------	------------------------------	-----------

次回開催予定: 2023年6月10日(土) 15時00分~17時00分 大阪部会と合同でzoom会議
議題: 授業案の検討 など